

# 新井満・いのちの交響楽 in 山口

2015年5月28日(木) 山口市民会館 大ホール

- 第1部 講演と歌唱「千の風に吹かれながら、青春を想う」新井満
- 第2部 講演「いまを生きる力」五木寛之
- 第3部 対談と歌唱 五木寛之×新井満
- フィナーレ 合唱「大河の一滴」「ふるさと」「千の風になって」  
山口市立川西中学校有志合唱団+新井満



「五木さん、どんな歌を作りましたか？」

## 明治維新の若き群像が偲ばれる山口市で、 “青春”をテーマに開催されました。

### 青春とは、いくつになっても 夢を追いかけること

新井さんが作曲した大ヒット曲「千の風になって」は、北海道駒ヶ岳山麓に住む新井さんの山小屋で生まれました。野鳥がさえずり、キタキツネやシカ、リスが訪れる大自然の中、ものの15分ほどでメロディーが生まれます。「見ていたのは森の動物と風だけ、まさに千の風が吹き渡る日でした」といい、自ら「千の風になって」を歌い上げます。

そして、テーマ「青春」について。「若者のイメージが強い言葉ですが、ある意味、青春は年齢と無関係」として、奥様である紀子さんの半生を紹介します。

噴煙に充ちた工場地帯で幼少期をおくる中、紀子さんは一冊の本『アルプスの少女ハイジ』（ヨハンナ・シュピーリ作）と出会います。たちまち、別世界のようなアルプスの生活に魅せられ「ヤギやヒツジと暮らしたい。私もハイジになる!」と夢が芽生えます。

紀子さんは夢を実現するため農業大学に進学。「ところが、ひよんなことから私とめぐり逢ってしまい、サラリーマンの妻に。長年の子育てや両親の介護から解放されたある日、ふいに幼少時の夢を思い出したと言うのです」。

新井さんはせめてもの労いにとスイス旅行をプレゼント。ハイジの育ったマインフェルトから作者シュピーリの墓参まで、二週間の旅をします。この旅を後日、紀子さんは『ハイジ紀行—二人で行く「アルプスの少女ハイジ」の旅』として出版。やがて、紀子さんから「一緒に羊飼いににならない?」という提案が。新井さんは「もう破れかぶれで『いいね』と」。二人は北海道にささやかな農場を拓きました。「生き活きとヒツジたちを世話する妻は、67歳のいまでも青春の真ただ中にいるようです。青春とは夢を追いかけること。夢を失ったときにここは老いるのだと思います」として、サムエル・ウルマンの詩「青春」の朗読で講演を終えました。

### もの皆、歌に始まる… 仏教、今様、歌謡曲

新井さんの青春論を受けて登場した82歳の五木さん。「しかし、老人に『いつまでも夢を追いかける』と言われたってねえ…」という開口一番に会場は爆笑。「最近、新幹線で『その席、私のですが…』と言われだまして、気をつけようとしたって老いは否めません。もう20年前に車の運転もやめました」と切り出します。

「山口県の生んだ詩人・金子みすゞに『大漁』という詩があります。イワシの豊漁にわき立つ浜に対して、海の底ではイワシの葬式が行われているだろうと綴り、人間の営

みに反省を迫るものがあります。対照的な歌で、江戸末期の橘曙覧は『たのしみはまれに魚煮て 児等皆が うまいうましといひて 食う時』と詠んでいます。魚を有り難くいただき、慎ましい幸せを謳歌する…両者とも、示唆に富むことを理屈で論じず詩や歌にしたことで、後世までインパクトを与えているんですね。

実は古代インドで興った仏教も、釈尊の教えを釈尊自身や弟子達がリズムをつけて歌って広めたことがわかっています。日本の万葉歌も、もとは抑揚のある肉声で歌ったもの。そして平安末期、庶民が自らの喜怒哀楽を歌った流行歌「今様」が湧くように生まれ、宮廷にまで大流行します。「今様狂い」を自認した後白河法王が編纂させたのが「梁塵秘抄」。今様の特徴は七五調ですが、今様の流行期に育った親鸞の耳には、そのリズムが残ったのでしょうか。晩年、七五調の和讃をたくさんつくり、仏の救いを説きました。

七五調のリズムは私たち日本人の感覚のなかに水脈のように流れ、昭和の歌謡曲としても開花します。「あなた変わりはないですか」「ひとり酒場で飲む酒は」といった風に、七五調は人間の柔らかな情緒を醸し出すのにしっかりと合います。

「本居宣長は『歌の始めは悲しみの叫びであろう』と説いています。それは現代の歌謡曲にも伝わっています。嬉しいにつけ悲しいにつけ歌がある。文字も大切ですが、肉声で歌うことも大事にしていきたいと思っています。パツと心が晴れるかもしれませんよ」と締めくくりました。

### 30周年記念の歌へ、 期待の拍手

住友生命健康財団30周年の記念の歌を、五木さんが作詞して、新井さんは目下、作曲に取り組んでいます。「五木さんは4つも歌詞をつくってください。1つ選ぶのは至難です。どれにしましょう」と新井さん。「歌詞だけでは裸で立っているのも同然。新井さんの曲がついて、はじめて歌になる。楽しみにしています」と話す五木さん。大きな期待の拍手がわきました。

最後に新井さんは、五木さん作詞の「青年は荒野をめざす」（作曲：加藤和彦作曲 歌：フォーク・クルセダーズ）を歌唱して、フィナーレを飾る地元の合唱団を舞台に呼び入れます。

登場したのは、山口市立川西中学校有志合唱団。正に青春の入口に立つ中学生たちの清々しく力強い歌声に、五木さん新井さんも感銘。満場の大喝采とともに幕が下りました。



「千の風」を作った北海道で、妻はハイジになりました」



「ヒット曲は、幾つも作って やっと出てくるものなんです」



ブラボー！山口市立川西中学校の皆さん



大盛況の山口会場